

私は高等学校において3週間の教育実習を行った。実習では地理の授業を担当するとともに、生徒との交流や学校業務への理解を深める機会を得た。実習を通じて50分間の授業を構成する難しさ、生徒との信頼関係の重要性、教員の業務の幅広さなど、多くの学びを得た。

1. 授業をして感じたこと、学んだこと

授業実践を通じて最も強く感じたのは50分間の授業を構成する難しさである。事前に教材研究を行い、教科書や資料集の内容を踏まえたうえで、身近な話題や雑学を織り交ぜて授業を構成したが、限られた時間の中で伝えるべき内容を取捨選択し、適切に整理することは容易ではなかった。また、模擬授業と異なり、実際の授業では生徒の反応や発言、作業中のざわつきによって進行が予定通りにいかないことも多くあった。そのため、話し合いや簡易的なワークを取り入れるなど、授業展開に柔軟性を持たせ時間を調節することのできる要素が必要であると学んだ。さらに、授業内容に一貫性が欠けると、生徒が学習の主眼を見失いやすいことも実感した。主題を明確にし、筋の通った構成で授業を展開することで、生徒の理解と集中を維持することが可能であると感じた。

2. 生徒との交流の中で学んだこと

実習期間中は、同じクラスのホームルームや朝終礼に参加し、生徒と日常的に接する機会を得た。特に放課後や清掃の時間には、生徒から学校生活や学習、友人関係に関する話を聞く機会があり、関係性を少しずつ築くことができた。実習の終盤には、生徒から写真撮影を求められたり、「また学校に来てほしい」と声をかけられたりする場面もあり、生徒との間に信頼関係が芽生えていたことを実感した。このような関係が授業にも良い影響を与え、生徒の自発的な発言や積極的な参加につながった。教科内容だけでなく、生徒との人間関係の構築が授業の充実度を左右する要素であることを実感した。

3. 職員室の様子、学校経営から学んだこと

職員室での教員の働き方や、学校運営に関わる業務を間近で見たことも大きな学びであった。これまでは生徒の視点でしか学校を見てこなかったが、教育実習を通じて、授業準備、生徒指導、保護者対応、行事運営など、教員が担う業務の多さと多様性を実感した。特に体育祭では、教員間での綿密な連携により、生徒の安全確保や行動誘導が行われており、授業以外の場面でも教員の重要な役割があることを理解した。教員は授業だけでなく、学校全体の運営や組織づくりにも深く関与しており、その責任の重さを再認識した。

4. 事前に立てた目標及び課題について

実習前に掲げた目標は、「生徒と良好な関係を築くこと」であった。この目標に対しては、日常的な関わりを通じて徐々に距離を縮めることができ、一定の達成感を得られたと感じている。特に、休み時間や掃除中の会話を通じて、生徒の興味関心や悩みに耳を傾けることを心がけた。こうした積み重ねが、生徒の信頼獲得につながり、結果的に授業中の関心や参加姿勢にも好影響を与えたと考えている。

5. 教育実習全般にわたって気づいたこと、学んだこと

教育実習を通じて得た最大の学びは、生徒への向き合い方の重要性である。授業の構成や知識の正確性はもちろん必要であるが、生徒に対して真摯に接し、丁寧に対応する姿勢が関係を築く第一歩となることを実感した。指導教員からも授業中や普段の対応に対して肯定的な評価をいただき、自身の関わり方が生徒にとって安心感を与えていた可能性を感じた。教育は対人関係を基盤とするものであることを改めて認識する機会となった。

今回の教育実習を通して、授業構成の工夫や生徒との関係性の重要性を実感し、教師という職業に対する理解も深まった。この経験を今後に活かし、よりよい授業や関係づくりができる教員を目指して努力していきたい。